

ナマステ



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

143 号

2021 年 9 月 20 日発行号



こすげ冒険学校後記

自然文化誌研究会 雫永法

今年の冒険学校も中止せざるをえないのではないかと…そんな不安と諦めの気持ちを抱えながらの年度スタートだった。しかし、5月には佐伯さん、贅田さん（だにえる）、学生のまとめ役をして下さっている宮坂さん（みややん）が中心となり、安全にキャンプを開催するための感染症対策実地検証キャンプを実行した。検証結果は、しっかりと準備すれば可能なのではないかと。私は参加することができなかったが大きな勇気をいただいた。

ZOOM会議にて一人用テントの発注、スタッフの事前PCR検査事項、開催規模、参加者の生活動線の想定をしながらか感染リスクを最大限に避けるための工夫、発熱者が出た場合の対応、参加者・家族・スタッフへの連絡、現地までの移動方法など様々な事柄について意見を出し合い準備を進めた。

東京都の緊急事態宣言下での開催は最後まで実施決定判断を待ったが、慎重に準備を進め実施することができたのは望外の喜びだった。それは自然のフィールドに身を置いた子どもたちの目の輝きや活動の様子、子どもたちとの接触の機会を奪われてきた学生スタッフの生き生きとした生活ぶりを目の当たりにできたからだ。

例年だと冒険学校中に夜更かしをして発熱等軽度の体調不良になる子どもがいるが、今年は本当に自己体調管理の意識が高かった。発熱者無し。小菅村の自然を全身で楽しみ、よく食べ、よく休み、参加者同士またスタッフとのコミュニケーションをしっかりと取れていた。連帯意識も日に日に深まっているように感じた。

晴天下で沢遊びを満喫し、体が冷えたら五右衛門・ドラム缶風呂の温かさを味わうという贅沢ループ。地元で採取してきた真竹を使った竹細工・木工作活動も充実していた。火の扱い（火遊び？）や薪割りを存分に楽しみ、火の職人が何人も誕生した。雨天での生活も経験できた。雨の日なのに手づくりプラネタリウム。スタッフを丁寧に案内差し上げて小菅生活ゆかりの星座内覧会を楽しんでいた。満天の星空・ナイトハイク・いろいろな生きものとの出遭いも貴重な時だったのではないだろうか。あんなに立派なガマガエルたちをあれ程愛おしむ人たちに会ったことはない。

かくして、2021 年度の冒険学校を無事終了することができた。各ご家庭でも様々な準備・配慮があったらと想像する。参加者・スタッフの異無く関係者全ての方々に感謝したい。

カリキュラムが変わりスケジュール調整が難しい中喜んで参加をし、子どもたちとの生活を楽しんでくれた学生の方々には特別のねぎらいの思いを伝えたい。また、子どもたち・学生スタッフの安全と安心のために絶えず様々な助言や下支えをしてくれた自然文化誌研究会のメンバーに感謝を伝えて後記を締めくくりたい。

<参加者からの声>

「竹馬を乗る機会がなかったので乗れて嬉しかったし、外で遊ぶことも減っていたので 1 日中遊ぶのもとても楽しかったです。美味しいご飯を毎日ありがとうございました。」 和田春音さん（中 1）

「冒険学校から帰ってきた時は、小菅村が恋しくて泣いちゃいました。また今度行きたいです。よろしくお願いします。」 和田日和さん（小 4）

僕が冒険学校でやったことの中で一番楽しかったのは、川遊びです。岩からジャンプして川に飛び込んだり、ヒキガエルを捕まえることに夢中になりました。また、ヤマメをさばくのもよい経験になりました。さばく前は、かわいそうだと思って少し悲しい気持ちになりましたが、「ありがとう」という気持ちで思いきってさばきました。皆で焼いた魚は、最高に美味しくて、また食べたいと思いました。コロナが落ち着きついて、開催されたらまた冒険しにいきます。 山本海凜さん（小 6）

「冒険学校まふゆのキャンプ」も 12/26～28 の 2 泊 3 日で開催予定です。最終ページで案内しています。

冒険学校の感想

自然文化誌研究会理事 横山緑

15年ぶりに冒険学校にスタッフとして参加しました。「小菅村でやる冒険学校ってどんな感じかな？」とわくわくした気持ちでした。

ところが、仰せつかった仕事は、食事担当で、しかも、「緑さん中心をお願いします」と黒澤さんからの言葉。「はい、やります」とは言ったものの、さて、キャンプ場の炊事場ってどこにあったっけ？という状態。そして、「献立も考えてください」といわれ、緊張が走りました。これが正直な最初の気持ちでした。前置きが長くなりました。

そんな私のスタートでしたが、今回はコロナ感染が広がる中でどうやって冒険学校を開催するかが大きな課題だったと思います。みんなで集まって話し合いができないので、オンライン会議を開きました。私がすごいなあと思ったのは、去年はできなかった冒険学校を今年はぜひ開催したいというスタッフの情熱でした。冒険学校ができるかどうかを、5月の連休にスタッフだけでキャンプをやり、検証したそうです。

まだ、すごかったことがあります！8月の始めにキャンプサイトの整地を行ったのです。整地と言っても、その前に地面を掘り返して排水溝の工事もやった上です。まさに土木工事。砂利は河原から何十回も一輪車で運んだとか。

私が8月に行ったとき、テン場は7月のときと見違えるように広くなっていて、1人用のテントが30張並んでいました。

テン場のほかにも、コッフェル置き場の棚が、きれいにペンキで塗られていたり、水着を着替える場所にシート

が張られていたり、アルコール消毒液の台が設置されていたり、お風呂の小屋が使いやすいように修繕されていたり、その一つ一つが、コロナ感染予防の対策でした。

こんなスタッフの熱い思いの中で実現した冒険学校です。子供たちにその思いが伝わらないはずがありません。私は、第一目の自己紹介の時に、コロナの中でもこんな冒険学校ができたよと言えるものにしようね！と話しました。

私は、ずーと、炊事場に張り付いていたので、子供たちの活動はよく見ることができませんでしたが、子供たちは、めいっぱい川で遊び、工作を楽しみ、ナイトハイクをし、そして、夜は、10時には就寝していました。元気に1週間自然の中で生活しました。その証拠に、誰一人熱を出しませんでした。また、夜のミーティングでは、どの子もその日心に残ったことをどんどん発表している姿に、私は感動しました。

さて、肝心の食事担当の感想を少し。

子供たちは、おいしいと言ってよく食べてくれました。毎食、食缶が、空っぽになりました。食材は、大月まで買い出しに行っていましたが、小菅の道の駅にも寄りました。そこで見つけた、カボチャの仲間のコリンキーでサラダを作ったり、オバケみたいに大きいウリ科の夕顔という野菜を味噌汁に入れたりして献立に出したところとても好評でした。コロナ対策の中では無理でしたが、小菅の郷土料理などを村の人を招いて一緒に作るのも将来的にできたらいいなと思いました。

最後に本音をチラリ。川遊び、一緒にやりたかったな。来年は・・・(笑)

森岡小晴さん（東京学芸大学2年生）

初参加でしたが、子供たちと一緒に沢山の初めての経験ができて、私も今もホームシックならぬ、キャンプシックです笑。子供たちが普段触れ合うことのできない自然の中で、想像力を膨らませて自由にやりたい事を出来る空間というのが、私にとって昔からとても理想的なものでした。そして実際に今回経験して、子供たちの「遊び尽くさなければ！」という遊びに対するやる気と、沢山の笑顔、自然に触れ合う様子を見て、これが本当の自然から学ぶという事なんだと実感しました。ここで学んだ事をぜひ私も周りに紹介したり、今後教育を実践できる立場になった時参考にしていきたいと思います！次回もぜひ参加したいです！ありがとうございました！！

森住芽衣さん（東京学芸大学2年生）

こんなに自然が豊かな環境の中で自由に過ごす経験も、子どもたちと一緒に過ごす経験も、社会人の方と話す経験も、なにもかもはじめてのことだらけでとても勉強になったし、本当に楽しかったです！

また、一緒に過ごしているうちにみんなが徐々に心を開いてくれたことや、ご飯がおいしかったって伝えに来てくれたこと、楽しかった出来事をニコニコ笑顔で話してくれたことなどがとても嬉しかったです！

このような経験ができたことに加え、スタッフも子どもたちもみんないい人ばかりでとても居心地がよかったので本当に帰りたくありませんでした。

絶対にまた参加します！！ありがとうございました。

アイラ島再び（その5） 佐伯 順弘（岐阜県）

DAY8 (15AUG2016) アイラ島→グラスゴー

アイラ島に到着8日目。月曜日。今日は、日本では敗戦記念日。そして今、当時敵国であった英国に好き好んで研究に来ている。（物見遊山ではない。実踏である。）戦争の記憶のない世代にとって英国は憎むべき対象ではないが、戦時中を生きた人々にとってはどうだろう。敵として銃を向けることはあっても、人として相手のことを尊重できただろうか。それぞれが国家のために戦ったが人として憎しみ合ったわけではないと答えるのだろうか。大日本帝国海軍軍人であった祖父からは敵を憎む言葉を聞いたことはない。様々な情報に接することのできる今ではあるが、結局のところ、近しい人の言葉から最も影響を受けるのかもしれない。さらに、ロンドンオリンピックの時に初めてロンドンの人々の温かさに接して以来、英国の人々に対する好感度は決して低くない。

そんなことを量子コンピュータ並みの速さで考えつつ、起床したのが0630。ややレアな排便を済ませシャワーを浴びると、記録ノートと今日の計画を確認した。0725 朝食へ。いつものフルブレックファースト。英国を旅する時は、基本的に1日の栄養のほとんどは朝食で摂取することになる。



0800 部屋の片づけ。立つ鳥跡を濁さず。来た時よりも美しく。学校や少年自然の家で叩き込まれた多くの日本人がもつであろう美德を発揮して、部屋を片付ける。さすがにベッドメイキングまではしないが、ある程度は整えておく。日常から整頓しているので瞬時に作業は終了。とりあえずチェックアウトする。これから、Caol Ila に行き、午後から空港に向かうので荷物をフロントで預かってもらう。行動中はできるだけ身軽でないといけない。



0815 ホテル出発。雲量9.5といった空模様だが、天気は悪くない。暑くなくてちょうどいい。バス停近くにあるポストへカードを投函。次に、その近くにある生協で、水500mL2本を買う。

0840 目的のバスに乗り込む。そのバスはCaol Ila の近くは通るがそこまでは行かない。そこで、乗り込むときに運転手に話しかける。「蒸留所まで行きたいんだけど・・・。」というところから「そこにはいかないよ。」「知ってる。近くまでいいんだけど。」「わかった。」ということで、近くで降りてもらったことになった。



日本だったら絶対にこういった交渉はしないが、海外に出ると、自分の意思をはっきりと主張するモードになっているので、自然に交渉することがよくある。どちらかというところ、こういう願いをもっているのだけれど助けてくれないかなあという感じだ。その結果、それで失敗したことも後悔したこともないが、日本でやったことはない。20分くらい乗ると、バス停でない分岐点ところで、「ここだよ。向こうにいくと蒸留所だ。」と降りされた。



目的の蒸留所までは約1km。たいした距離ではない。力強く歩きはじめる。



若干、坂道ではあったものの 20 分くらいで、蒸留所に到着。ビジターセンターに行くと、すぐツアーが始まること。そのまま申し込んで参加する。6GBP。ツアー客は他に 2 人いた。開放的で明るい蒸留所。日差しが直接入ってくるため、暑いくらいだ。いや、夏だから当然と言えば当然なのだが、ここは夏でも涼しいので、それに慣れ過ぎて暑いのが特別という気がしてくる。のんびりした見学で、説明も幸運なことに半分以上理解できたと思う。そんなツアーも終わり、テイスティング。味わい深いドラムであった。(ちなみにドラムとはスコットランドでウィスキー 1 杯のことである。) 記念品を買って近くのバス停に向かう。早めにバス停に到着するが、バス停番号が違うのが気になる。どういうことだ。ちがうのか、まさか、目的のバスはここを通らないのか、通らなかった場合、当然空港行きのバスにも乗ることができない。さあ、どうするどうするどうする。降ろされた分岐点ならどのような経路でも必ず通るからそこまで行けば大丈夫だ。そこまで歩こう。移動日でなければ、別に深夜になってもいいやという感じでのんびりしているのだが、移動日はそういう訳にはいかないのだ。

そんなわけで、移動を始めるとすぐに目的のバスが来た。手を挙げると乗せてくれて、さっきのバス停まで戻ってそこからまた Bowmore へ向けて出発である。

1133 Bowmore 着。

1200 The Harbour INN で昼食。



昨夜の牡蠣で安全性を確認したため、調子に乗って、牡蠣。当然、Bowmore 付き。海老のサラダ、ギネス 2 杯。1324 The Harbour INN のレストランを出る。しかし、ここで大きなミスを行っていたことに気づく。このレストランからホテルまでは約 100m。バス停はその途中にある。そして、バスが出るのは 1335 の予定である。150m を 10 分で移動しなければならない。どうしてそんなミスをしてしまったのかはわからない。アイラ島最後の食事を楽しみ過ぎたのかも知れない。

とにかく、競歩並みの懸命さで移動した。ホテルで荷物を受け取り、バス停に急いだ。そして、時間は無情にも過ぎていた……。失意の中、ふと気づく。人が多すぎる。待っている人が多いのだ。もしかして？そこにいる人に聞いてみた。「空港に行くバスは出発した？」「まだ来てないよ。」バスは遅れていた。その後、間もなくしてバスが来た。助かった。これも日頃の真摯な生き方が幸いしているに違いない。乗車後 10 分くらいして、空港に到着。慌てた割

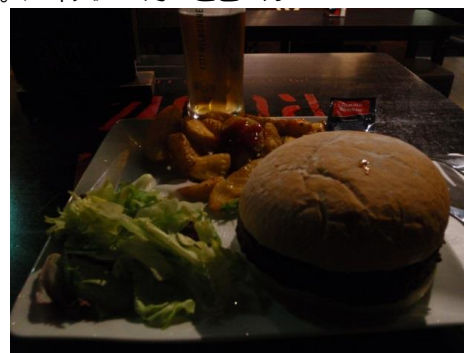
には、空港でチェックインまで、4 時間待ち。バスの本数が少ないから仕方ないのだが、乗り遅れてもバスで 10 分なら約 10km だから、3 時間もあれば余裕で歩けるはず。そんなことも思いつつ、読書で時間を有効活用する。

1820 アイラ離陸。1840 グラスゴー着陸。

1855 バスで市内へ。

1931 ユーロホテル着。若者が集いそうなホテル。夕方なのにやたら暑い。

2030 街の散策に出かけるが、早々に引き返してホテルで食事。ハギスバーガーとビール



グラスゴーは都会なので、アイラ島よりガシャガシャして、疲れる。シャワー+就寝

DAY9 (16AUG2016) グラスゴー滞在

良い天気。それでも日本ほどは暑くない。



朝食をいただき、シャワーを浴びて、出発準備。今日はグラスゴーの街を探索。

0930 Sightseeing Bus に乗車。観光地を回る乗り降り自由のバス。観光地を効率よく巡るのに便利。ロンドンにも、エジンバラにもあった。おそらく多くの都市にあるのだろう。

0940 サイエンスセンター。1540 ケルヴィングローブ美術館博物館。1800 スタート地点のバス停で降りる。一日で科学館と美術館と博物館を回ったが。グラスゴーはアートの街であり、みどころはまだある。アートとサイエンスを堪能するために、本当は 1 週間ほど滞在したいくらいだ。またいつか来ることにする。



1950 地元で人気のパブで夕食。
2100 ホステルに戻る。

DAY10 (17AUG2016) グラスゴー→ロンドン

0900 歩いて行ける範囲の探索へ。1 時間ほどで戻り、荷物の整理、チェックアウト。

1030 ホステル出発。興味深い大きな駅であるセントラル鉄道駅の探索。慌てる必要もなかったが、バスで空港へ。カフェで読書したり、記録を付けたり、創作活動をしたりして過ごす。

1500 出発フロアへ。1734 搭乗。1945 ロンドンガトウィック空港 GTW 着。2030 鉄道でロンドン中心部を目指す。2140 St.Pancras 着

2200 今や定宿と化した Generator Hostel 着
チェックインしてすぐにパブに行くが、もう調理はできないとのことで、ビールとクリスプ（日本でありがちなポテチ）で腹を落ち着かせる。パブを出てからフィッシュアンドチップスの店を発見。とりあえず、食べてホステルに戻り、シャワーを浴びて、寝る。

DAY11 (18AUG2016) ロンドン→香港

実質、英国最終日である。ロンドンらしく曇。

0730 起床。0830 チェックアウト。0840 近くのパブで朝食。どこでも考えることは同じらしく、スモールブラックファーストと名付けて、半分の量で出していた。そりゃそうだ。あれを年中食べていけば、太るのは当然。0920 地下鉄駅で鉄道カードにチャージ。また来るので多めに。

1015 LHR ロンドンヒースロー空港着。

1030 ここにきて新たな問題発生。手荷物重量オーバー。いくつかポケットに入れ、クリア。

1200 搭乗。非常口付近の広い席。足が伸ばせるので大変快適。緊急事態のときのサポートについては十分理解しているので全く心配なし。後は「食って、飲んで、映画観て、寝て」を自由に繰り返すのみ。しかも、足元が広いので、好きな時に立ち上がって、足の筋肉を動かすことで静脈の血流を活性化させることもできる。

2410 香港到着。

2450 乗継のために Gate16 到着。

(UK time 2450/18⇒HKG time 0750/19)

香港時間表記に変更。からだは真夜中感覚のはずだが体調はよい。昼夜関係なく食事をとり、映画を観て、眠くなったら寝るという昼夜逆転の数時間を過ごす、逆にそれが新しい土地での対応力を高めるのかも知れない。

DAY12 (19AUG2016) 香港→台北→名古屋

0750HKG Int'l Airport Gate16 に到着。荷物がバックパック1つなので、すぐ動けるし荷物番などはいらない。とりあえず、トイレで洗顔。髭剃りなどを終え、若干疲れた心と顔をリセットする。日本到着まではあとわずかである。

0822 洗顔などをしていたおかげで、それほど待つことなく、搭乗。着席するもまだすぐには飛ばない模様。どうでもいいがこの機体のエンジンがロールスロイス製だと知る。エンジンも作っているのかと感心しつつ、いつの間にか寝ていた。その間に離陸した模様。本当は離陸時の加速度によりシートに押し付けられるような感じを楽しみ、F=ma を実感したいのであるが、どうも着席すると眠くなるというなんの条件反射だかなんだかが発動してしまい、気が付くと飛んでいたということがしばしば起こる。エコノミークラスの座席でも十分快適に着席できているからだろう。0930 軽食。パイ、クッキー、レモンティー。

香港を出発したものの、台北で乗り継ぐため、中部国際空港まではまだまだかかる。本当は台北で1週間くらい遊んでから帰りたいのだが、そういう訳にもいかない。（事故が起きました、手違いが起きました、病気になりましたなど言い訳はいくらでも付きそうなのだが、それをやると次回の旅行時にいい顔をされないことが予想される。休暇を出して、完全に私的な時間であるにもかかわらず、「海外旅行届」なるものを出さなければならない職場である。もちろん、そんなものを出さずに勝手に出かける同僚がいることも知っているが、そんなことをチクリと暇ではない。）予定を変更することなく、台北ではあっさり乗り継ぎだけする。

（香港と台北の間には時差はない。）

1040 台北で乗継。セキュリティチェック

1200 もう飛んでいた。定刻通り出発したらしい。

1242 食事。タイワニーズテイストの牛丼っぽいごはん。パイナップルケーキもついてた。

1430 日本の大地に着陸。NGO 中部国際空港着。

1450 入国審査などを終え、出口へ。

(HKG time 1450⇒JP time 1550)

1550 入国審査などを終え、出口へ。すぐ、ターミナルビルの上の階にある浴場「風の湯」へ。ここは、浴槽から航空機が見えるというなかなか快適な浴場。旅の疲れを癒すにはもってこいの場所である。入浴+タオル¥1030。

1650 食堂でローストビーフ¥1080+ビール¥360。

日本だからと言って、純和食を選ばない

1736 中部国際空港→新鷺沼。まだまだ自宅に帰着するには1時間以上かかるが、それだけ旅の時間が残っているということだ。

201208, 201212 に続いて三度スコットランドを訪れたが、今回の修行を通して、まだまだウィスキーを理解できていないことを思い知らされた。これからもウィスキー修行の旅は続く。それはそうだ。グラス一杯、一杯が修行であり、冒険なのだから。 (完)

宮本茶園

小学生の頃より読み続けていた新聞ですが、定期購読を止めました。宮本茶園は4年連続の赤字経営、涙ぐましい経費削減です。藤野移住時にテレビを捨てついに新聞も読まなくなり、山で猿にしか会わない私が社会情勢を知る手段は、今や軽トラのラジオとスマホだけになりました。この夏嬉しかったのはオリンピック開会式での抗議の声を伝えるニュースでした。「開会式プログラムが中断し静寂になると『オリンピック今すぐやめろ!』のコールがスタジアムに響いていましたね」とラジオで聞き、たくさんの人が「オリンピックより命」と怒りの声を上げている事に勇気もらいました。また「教員免許更新制23年度に廃止へ」のニュースには、特殊教育研究部の昔仲間から「文科省目的達成したな!」とメールもらいました。学大サークル長屋の部室で社会の理不尽に怒りデモや集会に参加して教育労働者になった私たちは、誰も管理職にならず(なれず?)定年退職を迎える前に学校を去りました。「蠅の斧」教員の私は学校から排除されましたが、佐野川に根差して不屈に生き続けています!

・4年目の佐野川茶

足柄茶の荒茶買い入れ価格が低迷し、各産地の茶農家は苦しんでいます。藤野茶業部会では、県農業技術センターの木村先生から「今年は販路を持つ農家は足柄茶に出荷するより、自分で売る努力をしましょう」と指導がありました。木村先生は「相模原市は県庁所在地・政令指定都市の緑茶に対する年間支出金額ランキング9位、一世帯当たり5173円購入しています。市民の皆さんにもっと佐野川茶を飲んでいただきましょう!」と語ります。相模原市民が購入する年間5173円の緑茶、1000円の上級煎茶1袋が入るだけで佐野川茶の未来は安泰です。

24号で佐野川茶用荒茶を藤沢市の茶来末に搬送した事をお伝えしましたが、一番茶全収量の半分と昨年から取り組んでいる一番茶摘採後に刈捨てていた葉を活用した刈番茶が今年度佐野川茶製品原料です。昨年の倍以上ある荒茶、部会で用途について話し合いました。刈番茶は一番棒ほうじ茶と業務用粉末緑茶に加工しましたが、今年は葉の仕上がりが具合が良好です。茶来末の佐々木社長のアドバイスで新製品としてほうじ茶を製造する事にしました。荒茶は夏を越すと熟成が進んで味がまろやかになるそうで、一番棒ほうじ茶とほうじ茶は10月14日発売予定で準備しています。ほうじ茶はカフェインが少なく体を温める効果の高い飲み物です。秋の夜長、虫の音を愛でながら藤野茶業部新製品ほうじ茶をご愛飲ください。

1984年から続く成合会、自然文化誌研究会冒険採茶部草創期メンバーで若くして亡くなった成合君を慕う仲間の集まりです。毎年命日に近い10月最終土曜日谷中の墓地

宮本透

にお参りして呑み会になりますが、私はすっかり佐野川茶を行商しています。さいたま市に住む石田君から「自治会長をして敬老の日記念品を準備しているのですが、先輩の佐野川茶購入できますか?」と連絡がありました。狭山茶産地埼玉県からいただいた藤野茶業部初めての大きな取引、佐々木社長と相談し上級煎茶を納める事にしました。自治会から提示された贈答箱にお祝カード・佐野川茶紹介チラシ・上級煎茶2袋を詰める仕事は一日がかりでしたが、佐野川茶を飲んでくださるお年寄りの健康と長寿を祈念しながら部員一同心を込めて作業しました。(写真①②)



・夏の茶仕事

この夏は県農業技術センターの指導で藤野茶業部各茶園の更新作業を行いました。藤野茶業部では5月に一番茶を摘採した後、夏整枝・秋整枝・春整枝と年3回整枝講習会を開催して良質茶葉の生産に取り組んでいます。季節毎の整枝作業は摘採・整枝した株表面から新しく伸びた枝を数芽残して刈るので、茶園の樹高は毎年数cmずつ高くなります。整枝を繰り返すと茶株面の下に日光が届かず、枝が細く新芽が少なくなって葉層が薄くなり茶葉の品質が低下します。そのため茶農家は数年おきに古い枝を深く切り落とす剪枝をして茶樹の更新を行い、良質の芽が数多く出るように茶園管理します。

5月下旬宮本茶園の営農指導をお願いし、葉層が5cm程で枝が割り箸のように細く良質の葉が収穫できない上岩の茶園を地際から30cm程の高さまで切り詰める中切り更新をしました。細い枝が絡み合って密集する茶樹を剪枝するには、剪枝機で3往復しなければ切り詰める事ができません。更新に使う剪枝機は整枝用の浅番刈機や刈らし機と比べ重量があり、長時間作業すると汗だくです。木村先生・山崎先生と私の3人で交代しながら刈り続けましたが、一日かけて5畝がやっとでした。



6月半ばからは中村茶園・大河原茶園・和田茶園で深刈り更新をしました。深刈り更新は古葉が残らない程度に摘

採面から 10～20cm 切り落とす作業で、今回はヘルパーの神田さんを入れ 4 人で 2 台の剪枝機を使い効率よく剪枝して行きました。中切り更新は一番茶摘採後～6 月 10 日頃、深刈り更新は 6 月 10 日～25 日頃、夏整枝は 6 月 25 日～7 月 10 日頃を目安に行う作業で、それぞれ梅雨明け後に新芽が出るよう考えながら茶樹の枝を切り落とします。佐野川は産地全体で農薬を使わない茶栽培に取り組んでいますが、藤野茶業部農家は病害虫が発生しないよう常に細心の注意を払って剪枝・整枝作業を行っています。

JA 神奈川つくい 5 月号で「茶園の管理作業や摘取のお手伝いをしていただける方を募集」と呼びかけました。申し込みのあった参加者に月 1 回ヘルパー養成研修会を開催し、6 月深刈り更新・7 月夏整枝・8 月夏肥・9 月秋肥・10 月秋整枝と「茶園管理ごよみ」に基づいた整枝・施肥作業を学んでもらっています。参加者は熱心に関心を持っており、来年の佐奈川茶収穫がとても楽しみです！



・第 43 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

昨年から引き続きコロナ禍の影響で 7 月 25 日献花追悼のみで実施する事になった第 43 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会、私は上岩花卉畑で献花用生花栽培に取り組みました。昨年はひまわりとアスターを植え付けましたが、今年は紅花と百日草を加えました。30 年程前横須賀市に住む在日韓国人が主催する学習会に参加し、日本の朝鮮植民地支配や戦時徴用工強制連行の歴史を学んだ事がありました。彼は村にきた日本兵に銃剣を突きつけられて無理やりトラックに乗せられ日本へ強制連行されたそうです。戦時徴用工として山形県の鉱山で奴隷のように酷使された塗炭の苦しみを静かに語ってくれました。彼の話の思い出しながら紅花を育てました。

22 号で報告しましたが追悼会当日に開花ピークを作る栽培技術は難しく、残念ながら紅花は全て咲き終わりアスターは開花が間に合いませんでした。今年の献花用生花栽培は実行委員の吉田さんが除草作業を担ってくださり、ひまわりと百日草はふんだんに用意する事ができました。追悼会前日の収穫作業は実行委員会から相模原市教組の先生も参加し、数百本のひまわり・百日草を切りました。相模湖交流センターの会場に設置された献花台には本村賢太郎相模原市長をはじめたくさんの方々がダム建設工事犠牲者へ生花を手向けてくださいました。

追悼会翌週は神奈川朝鮮中高級学校の生徒たちが相模ダムを訪れる課外学習が行われました。受け入れ案内担当の橋本さんにお願ひし、上岩花卉畑で咲き誇るひまわりを湖畔のダム建設工事犠牲者追悼碑への献花に使ってもらいました。細かな打ち合わせができず生花を届けたのは生徒た

ちのフィールドワークが始まる直前でしたが、担任の先生が時間をくださり交流する事ができました。「強制連行した戦時徴用工・軍隊慰安婦被害者に謝罪・補償しない日本政府や歴史をねじ曲げる右翼が台頭する日本の中で、私にできる被害者への謝罪は佐野川で心を込めて草花を栽培して追悼会の献花に使っていただく事です」と一言だけあいさつしました。アミーゴ月曜サロンで橋本さんから「子どもたちは宮本さんの言葉しっかりと受け止めていたよ」と聞かされ、胸が熱くなりました。

・雑穀街道普及会夏の活動

上岩雑穀畑の作業は、茶園更新剪枝作業や長雨の影響で予定通りに行うことができませんでした。麦の収穫は 6 月 14 日から大麦、24 日から南部小麦と梅雨の晴れ間に刈り取っていったのですが、月末までに終わらず 7 月に持ち越しました。7 月上旬の長雨で水をたっぷり吸った穂が発芽し、7 月 9 日に団子麦を刈ったところで残りの収穫を断念しました。ともあれ収穫した大麦・南部小麦は千木良のヤギ苑で高橋さんに脱穀していただいたので、ちーむゴエモン活動の麦味噌・醤油原料が確保でき一安心です。7 月 11 日から雑穀と大豆の植え付けを行いました。種まきが終わると梅雨が明けると真夏の太陽が照り付けます。穂が新芽で浅黄色になった団子麦を刈り払い機で株元から刈り、積み上げて火を放ちました。パチパチはぜる麦粒の音を聞くとむなしい気持ちが込み上げて、体力気力が衰え老人になっていく現実を受け止めました。



8 月下旬になるとキビが出穂してきます。INCH 運営委員会に防鳥ネット張りの手伝いを呼びかけましたが反応がなく、懇意にしているご近所をお願いしてネットを張りました。ネットの弛みを直しながら麻ヒモで支柱パイプに固定し、強風に飛ばされないよう重石に裏山の竹を切って運ぶ作業を数日続けました。これらの作業は雑穀栽培講習会で実施できるとよいのですが、まだまだ課題が多いようです。

雑穀街道普及会幹事で東京農大院生の玉木さんは「無形の家」にあったローカルシードバンクを引き取り、農大厚木キャンパスで系統保存に取り組んでいます。山梨県早川町は雑穀栽培復活に取り組み、シードバンクに保存されている種子の増殖を玉木さんに委託しています。早川町関係者の農大視察に同行させていただきました。情報交換して有意義な時間を過ごしましたが、雑穀研究を続ける玉木さんの姿は学大農場の温室で黙々と系統保存の仕事をしていた木俣師と重なります。2023 年は国際雑穀年、各地で色々な取り組みが始まっています。



植物と人々の博物館 Plants and People Museum Vol.24

1. 植物と人々の博物館ではオンラインでの市民講座を共同開講しています。全世界どこからでもzoomでご参加頂けますので、ぜひご参加ください。

環境学習市民連合大学 第3回環境学習会「環境学習原論」

日時(予定): 10月31日(日) 10:30~12:00

場所: 小金井市環境学習館および ZOOM

話題: 生涯にわたる環境学習過程

(第1回、第2回の内容はYouTubeで公開されています)

2. 民族植物学ノート第15号の原稿を募集しています。

締め切りは2021年12月末です。

これまでの掲載記事については、植物と人々の博物館ホームページで読むことができます。

※いずれも詳細はHP

(<http://www.ppmusee.org/>) をご確認ください。

「冒険学校 まふゆのキャンプ」

12.26~28(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか?

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待っています!

日程: 12月26日(日)~28日(火)

場所: 小菅村のいつものキャンプ場

宿泊: テント・ログハウス・野宿など

対象: 小学校3年生~中学校3年生

定員: 15名(先着順です)

参加費: 会員¥26,000 非会員¥28,000

(奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む)

申込み: ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名・年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



＜国土緑化推進機構 令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞

○ 事務局の麗しき日々

- ・この夏の小菅滞在日数は、みややんの15泊が最長のもよう。
- ・だにえるとのんちゃんが結婚しました、おめでとうございます!!
- ・船木民宿が解体されました。後に何かが建つもよう。

- ・ボビーの車のナンバーは73-73(奈良さん-奈良さん)のもよう。
- ・ひなたがスタッフになり、車で小菅に来るとは・・・時代は進んだ!!

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。

正会員: 10,000円 一般会員: 5,000円

学生会員: 3,000円 賛助会員(個人・団体): 10,000円

家族会員: 6,000円 準特別維持会員: 50,000円

特別維持会員: 100,000円

植物と人々の博物館友の会会員: 3,000円

雑穀街道特別会員(小菅特別から変更): 1口1,000円から

成合基金(冒険探検基金): 「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座: 00100-2-665768

口座名: 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナツメ 143号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

＜発行日＞2021年9月20日

＜編集＞自然文化誌研究会 事務局

＜発行＞ 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>